

5-12 バラコート被災地視察

マンセーラにある政府ゲストハウスを午前5時に出発。前日に渋滞で視察できなかったバラコート被災地に6時に到着した。バラコートは会談した大臣はじめ、震災対策に取り組む関係者が一様に最も被害が深刻な地域だと述べている。

国連緊急援助調整官室のイゲランド事務次長は「これはわれわれの知る限り最も悲惨な悪夢だ」と言及しているが、まさにその表現が相応しい。バラコートは川を挟んで両岸に広がる溪谷美に溢れるリゾート地域。7万の人口の多くがが一瞬にして犠牲となった。目にする建物は全てペンヤンコであった。見渡す限り瓦礫の山が続く。町は壊滅状態である。

悲惨な状況に追い討ちをかけるように10月では珍しく雷が鳴り、激しい雨が降ってきた。被災者には避難所がないため、危険を承知で倒壊しているビルにできた隙間に身を寄せ、雨をしのいでいた。この雨で地盤が緩み、2次災害の危険性が高まってきた。こうした危険な状態にもかかわらず、大多数の生存者は瓦礫の軒先で夜を過ごすという辛酸を嘗めている。一刻も早くテントなどの避難施設を設け、被災民を安全な場所に移すことが最優先課題である。



6階建てのホテルも倒壊



倒壊した建物で雨をしのぐ人たち



村全体が押しつぶされたように倒壊